

小石川高校ラグビー部

後援会会報 Vol.8

発行責任者 後援会理事長 齋藤守弘 平成 18 年 9 月発行
公式ホームページ <http://www.geocities.jp/koishikawarugby/>

目次

ご挨拶

・後援会会長

川口 明(昭和 42 年卒).....2

小石川高校ラグビー部より

・平成 17 年度新人戦結果.....2

・平成 18 年度春季大会結果.....2

・春季大会を振り返って

石黒 将矢(部長).....2

前原 遼太(キャプテン兼 BK バイス).....3

脇坂 洋輝(副キャプテン).....3

大久保 晋之介(FW バイス).....3

2 年生マネージャー.....4

・顧問より

山田先生(体育科教諭)

「花園予選に向けて」.....4

・現役部員の状況.....4

追悼寄稿

石川 周三(昭和 25 年卒)

「笹川治さん」.....4

連載 OB コラム

清野 健一(昭和 58 年卒)

「ラグビー人生、四半世紀

【麻薬に蝕まれた生活?】

.....6

OB 現役プレーヤーより

島崎 将成(平成 13 年卒).....8

理事会よりお知らせ

・平成 18 年度総会のご報告.....8

・ラグビー部 60 周年記念式典について

南 高之(昭和 45 年卒).....9

・大泉高校ラグビー部 60 周年記念式典.....10

・学年幹事の設置のお知らせ.....10

・公式ホームページ紹介.....11

・平成 18 年度会費納入のお願い.....11

・後援会メーリングリスト参加のお願い.....11

・住所不明者.....11

・編集後記.....12

総会資料

・平成 17 年度活動実績報告.....13

・平成 18 年度活動計画.....13

・平成 17 年度決算報告.....14

・平成 18 年度予算.....15

ご挨拶

後援会会長 川口 明 (昭和 42 年卒)

いよいよ小石川の中高一貫教育が始まりました。現在は都立小石川中等教育学校と都立小石川高等学校が並立しておりますが平成 23 年 3 月をもって都立小石川高等学校は閉校となるそうです。高校の名前が消えてしまうのはやや寂しい気もしますがそれでも小石川の名前が残っているだけ良いか、とも思ったりしております。

昨年来、中高一貫化による生徒数減少に伴う部員減対策を検討しておりますが中々具体的な行動までには至っておりませんでした。しかし、此処に来て漸く都内のラグビースクールに対して小石川中等教育学校を受験してもらうべくチラシを作成し配布する作業に入りました。何人かのOBの方々に文章の作成をお願い致しましたが、実際に受験する小学生向けというよりもそのお母さん方向けに、如何に小石川でラグビーをすると良いかをアピールするかがポイントとなりました。

又、我々が主体となって近くに自前のラグビースクール(ラグビークラブ)が出来ないかを検討する研究会も発足させようとしております。これが出来れば体の動く大学生、若手社会人は中学生や小学生高学年の練習台や指導に来ることが出来ます。又、既にリタイアされた方でも小学生低学年や入学前の幼児の遊び相手として参加することが出来ます。皆でこの素晴らしい小石川高校ラグビー部を継続させて行こうではありませんか。

これからも皆様の御協力をお願い致します。

小石川高校ラグビー部より

平成 17 年度新人戦結果

場所 科技高多摩高校グラウンド

1月15日 対戦相手 修徳高校

19 - 10 (12 - 5 , 7 - 5)

1月29日 対戦相手 科技高多摩高校

14 - 33 (7 - 19 , 7 - 14)

2月5日 対戦相手 芝浦工大高校

0 - 12 (0 - 7 , 0 - 5)

2月12日 対戦相手 駒沢大高校

19 - 13 (12 - 0 , 7 - 13)

平成 18 年度春季大会結果

場所 日大二高グラウンド

4月16日 : 対戦相手 石神井高校

0 - 41 (0 - 24 , 0 - 17)

春季大会を振り返って

石黒 将矢 (部長)

「Dead or Alive」

気がついたら3年生になっていた。2年前に入部したのが懐かしい…。今までのことを思い返すと、いろいろなことがあった。現在、3年生は最後の大会を前にしている。昔のことを反省し、今まで学んだことを思い出し、大会までの残り3ヶ月を過ごしている。しかしまだ皆必死ではない。今、我々に足りないものは「必死さ」ではないか。2年生の終わりごろから僕はそのことを考え、常に皆に訴え続けてきた。だが、まだ全員の意識は薄く、個々が離れている気がした。だから、これからは3年は当然、続いて2年、1年にも死に物狂いで練習に取り組んで欲しい。技術どうこうの話ではない。後は「気持ち」なのである。今までの自分を変えて、前進する以外に勝つ方法はないのだ。一人一人が心から自分を変えていく気持ちを持って練習に取り組んでいけば確実に前進し、強くなると思う。残り3ヶ月、まだ間に合う。去年や一昨年のように1回戦、2回戦で終わりたくない。目標は、ズバリ花園出場。今までやってきたことを絶対に無駄にしたくない。「Change Myself」 自己を変えて、高めてゆく。皆がこのことを、苦しい時、辛い時に思い出して欲しい。それから、現在のチームの状態としては、基礎力の徹底が求められる。丁寧に、確実に基礎を確認することで、応用につながられるからである。チーム内の雰囲気もよく、この調子なら大丈夫だ

と思う。最後に、皆には「変わる」「必死」の二点を常に頭に置いて欲しい。そして題にもあるように、常に生死(勝敗)の瀬戸際にいるつもりで練習に取り組む意識を全員で持ってやっていきたい。

前原 遼太(キャプテン兼BK バイス)

「新人戦・春季大会を終えての目標」

新チームになり、初めての公式戦である新人戦を経験しました。結果は、全勝とはいかなかったものの、チーム1人1人がこの試合を通じて手ごたえのある自信のようなものをつかんだと思います。それからすぐに、春季大会が行われました。初戦の相手は、都立石神井高校でした。試合当日、チーム全体の雰囲気はベストな状態で臨みました。試合開始直後、正直に言って勝てると感じていました。しかし、その油断からか相手に先制トライを奪われると同時にチーム全体の戦力が落ちてしまい、立て続けにトライされ負けてしまいました。悔いが残る試合でした。この経験をマイナスで受け取るのではなく、プラスに受け止め、チームが徐々に1つにまとまってきたのを日々手に取るように実感しています。去年よりも練習時間が延び、様々な内容の濃い練習が出来るようになりました。最近では、初心に帰り皆の顔が上を向いて、ラグビーを楽しんでいるような感じもします。次の秋季大会に向け、頑張っていきたいと思います。

脇坂 洋輝(副キャプテン)

「これからのラグビー部について」

3年にとって最後の秋大会まであと3ヶ月(6月現在)。新チームになってから、だいぶまとまってきた、ラグビーが面白くなってきたところだと思います。1年生もなかなか運動能力の高い選手が多く、チーム全体の底上げが出来て、部としてはすごく良い雰囲気です。でも、僕には少し不安があります。それはまず、1つ1つのプレーに対する愚直さ、がむしゃらさが足らず、さらにタッ

クルなどの基本的なプレーの練習量が絶対的に不足していることです。やはり、そのようなことは試合に響く上に、日々の練習でしか養えないことです。次に、プレーに対する「ずる賢さ」がないということです。強いチームは、反則にならない程度の「ズル」をしていると思います。上に行けば行くほど、素直なプレーでは勝ち上がっていきません。やはりこれも、普段からどれだけイメージして練習できたかにかかっています。残りの3ヶ月、普段の練習や、夏休み、合宿などを含めて、今述べたことやメンタル面、フィジカル面でも強くなるために、厳しい練習になると思いますが、頑張っていきたいと思います。

大久保 晋之介(FW バイス)

小石川ラグビー部の現状はあまり良くありません。春季大会では1回戦敗退、練習試合でも勝ち星が多くないといった状態です。小石川ラグビー部に何が足りないのかといえば、それは体格でも、スピードでもなく、「共通意識」だと僕は思うのです。ここで言う意識とは、試合をする中で何を目的=目標にしているのかという、プレーヤー皆の考えです。「共通意識」は、チームワークと言い換えることも出来ます。ラグビーは色々なチームスポーツの中でも、特にチームワークを要求されるスポーツです。中でもFWはセットプレー、モール、ダブルタックルなど、密集した状態でのプレーが多いので、高度なチームワークが必要となります。よって、FWはもちろん、チーム全員にはっきりした「共通意識」がないと勝つことは出来ません。だからといって、部員の誰か1人の考え方を基準にして、皆がそれに合わせようというのはお門違いです。押し付けられた考えでは、誰も納得しません。そうではなく、皆がもっとラグビーについて考え、他の人のそれとぶつけ合う中で生まれたものこそが「共通意識」となりえるのです。だから僕は、ラグビー部全体やFW間で話し合う場を設けて、皆の考えを引き出した、意見を交わしたりすることで皆の中の共通意

識を育てていく手助けをしたいと思います。そうして皆の中に明確な「共通意識」が芽生えれば、自然と勝利への道は開けるでしょう。

2 年生マネージャー

マネージャーになって早くも 2 年生になろうとしています。今年の部員さんの人数は 3 年生 11 人、2 年生 9 人、1 年生 6 人。マネージャーは 3 年生 2 人、2 年生 2 人、1 年生 1 人。顧問の先生 3 人と計 34 人で活動しています。部活の雰囲気は、顧問の山田先生と部員さんとの信頼関係は強く、また部員さん同士も仲がよく、和気藹々としています。部活は日曜・月曜日を除いた週 4 日、放課後に活動しています。また水・金曜日には朝練習があります。中高一貫化により今まで 5 時までしか使用できなかった校庭が 6 時半まで使えるようになったので、より一層秋の大会に向けて練習に励んでいます。マネージャーは今まで 3 年生を中心に活動してきましたが、これからは 2 年生が中心となってくるのでこれまで先輩方がやってきたことを手本に頑張っていきたいと思います。

顧問より

山田先生 (体育科教諭)

「花園予選に向けて」

前原主将の下、チームは確実に成長しています。技術面、体力面に加え、精神面でも大きく成長していると感じられることがあります。それは厳しい中にも『温かみ』のある気持ちで、上級生が下級生を指導しているところを目の当たりにしたときです。以前も温かみのある指導を行っていましたが、今まで以上に下級生を『思いやる』という気持ちが強くなったことにより、以前よりも仲間の結びつきが強くなり、とてもよい雰囲気の中で練習に取り組んでいます。春季大会後は体力強化をメインとした練習メニューとなっていますが、お互い励ましあいながら必死に走りこんでいます。この『思いやる』気持ちがもっと、もっと強くなれば今まで以上に仲間を信じることがで

き、どんな逆境にも負けない強いチームになると信じています。試合で諦めなければ勝つチャンスは巡ってくると思います。そのチャンスをつかむためにも『思いやる』という気持ちを持ち続けながら練習に取り組んでほしいと思っています。きっと秋には部員たちは良い結果を残してくれます。今後も応援をよろしくお願いいたします。

現役部員の状況

現在、プレーヤーは 3 年生 11 名、2 年生 9 名、1 年生 6 名の計 26 名で活動を行っております。また、今年度より小石川高校の中高一貫化がスタートいたしました。それにより入学した中学 1 年生が 1 名入部し、ラグビー部の練習に参加しております。マネージャーは 3 年生 2 名、2 年生 2 名、1 年生 1 名の計 5 名で活動しております。

中高一貫化により、現在小石川高校の新入生の数は以前の半数になってしまいました。それにともない新入部員の数も伸び悩んでいる状況であります。秋季大会が終わり、3 年生が引退した後、どのように部員を確保し大会に出場するかが課題となっております。

追悼寄稿

名誉会員の笹川治氏が一昨年亡くなられました。笹川治氏の追悼寄稿を昭和 25 年卒の石川周三さんに書いていただきました。

石川 周三 (昭和 25 年卒)

「笹川治さん」

今年の二月下旬、小石川昭和二十五年卒業生の集まりである紫水会の年次総会通知が来た。その余白に野球部キャプテンであった宮本英樹君の手書きのメモで、「笹川さんも先年他界され、ロータリーも淋しくなりました」とあったので驚いた。彼は野球部だったから、在学中は笹川さんのことは知らなかったのだが、同じロータリー・クラブで知り合いになり、五中出身ということが分かって、特に笹川さんと親しくしていたようだ。電話すると、笹川さんの葬儀にも参列した、と話

してくれた。同じく同期で明治生命に行った功能文夫君に聞くと、笹川さんは一昨年の九月二十八日に亡くなったそうで、存じ上げなかったとはいえ、本当に申し訳ないことをしてしまった。奥様のご住所を調べて、僕と同期の竹割・伊達、一年下の内出、二年下の中内・杉田の諸兄とで花をお贈りした。奥様から鄭重なお礼状を頂いたが、笹川さんのことを後援会に知らせなかったのも、その後も会報を送って貰い申し訳ない。気持ちとして後援会に寄付をする、とのお言葉であった。全てお彼岸に間に合ったのは宮本君のメモのお蔭である。

ラグビー部発足の頃の話は創立二十周年だかの記念誌に書き、同じものをその後の記念誌にも出して貰ったが、それも昔のこと、知らない人も多いと思うので、もう一度書くことにしよう。

僕は四ツ谷で生まれたが、父の転勤で、幼稚園の時大阪の郊外に引越し、戦争を経験して敗戦。父がフィリピンから戻って東京勤務となり、昭和二十二年春、僕は都立五中に転校した。何故五中かという、父が戦前の伊藤長七先生のことを知っていたかららしい。いい学校に入れて貰ったと今でも感謝している。校舎は同心町の都立工業で、狭い校庭はコンクリート、体育の時間に円陣を作ってサッカーの真似事をしていた。大阪の北野中学はラグビーが校技で、全員がやらされていたがサッカーなど見たこともない。唯、手で触ってはいけないことだけ知っていた。だから、こちらに来たボールを頭で受けたらとんでもない方へ行ってしまった。皆がそれを見て笑ったので、それこそ頭に来た。それである時、仲のいい同級生数人にラグビーをやらないかと声を掛けると、皆が応じた。他にも何か変わったことが始まるらしいと思って寄って来る生徒が下級生の中からもポツポツ出て来た。全く見当もつかないスポーツをやってみようという気になるのは、それこそ開拓・創作の精神だったと思う。小川町の古道具屋で、確か三十円の中古ボールを買った。革が伸びてサッカー・ボールのように真ん丸だったので、

誰かが妊娠ボールと呼び出した。森本君はお父さんが戦前法政の選手だったそうで、お父さんが使ったジャージーを着ていた。本物のジャージーなど着ているのは彼だけだった。靴は運動靴、中には裸足の者もいて、泥で滑る時は足に縄を巻いていた。(その後、僕が安い毛糸を仕入れて来て、皆で売り、稼いだ金でジャージーを作った。つまり闇屋の真似事をした訳だ。)

しかし、狭いコンクリートの校庭ではラグビーは出来ない。まだあの辺は周りが焼け跡で、隣の区役所や筋向いの竹早(都立第二高女)は残っていたが、殆どがバラックだった。そこで、他人の学校の焼け跡グラウンドを探しては勝手に入り込んで練習をした。染井の墓地の先の外語もグラウンドだけで学校は無かった。どれもが放置された空き地で、東大農学部のグラウンドは特に石だらけで最悪だった。もっと手近な茗荷谷に拓大があったので、そこにも入り込んだ。二十三年十一月十二日、そこで練習をしていると、極東軍事裁判の判決のラジオ生中継があり、何故か拡声器で放送された。多分拓大では授業があったのだろう。「東條英機、絞首刑に処する」の“Death by Hanging”という英語は今でも耳に残っている。多分、そこで拓大ラグビー部の人たちと知り合いになり、花小金井のグラウンドで教えて貰うようになったのだ。そして、拓大OBの笹川さんが現れる。最初に会ったのは何時だったか、全く記憶に無いが、彼は多分明治生命に入社して間もなくだったと思う。我々はサラリーマンの生活に関心は無く、誰も聞かなかつたが、今思えば、多分彼は外廻りの営業時間中にやって来て一緒にラグビーをして呉れたのだろう。

その頃は駕籠町で練習することが多かったと思う。笹川さんは背広の上着を脱ぎ、ワイシャツ姿で一緒になって走り回ってくれた。竹割君の記憶では、笹川さんが走り過ぎて靴の底革が剥がれてしまったという。その後、何喰わぬ顔をして会社に戻ったのだろうか。時々花小金井まで行ったが、当時あの辺はまだ武蔵野そのもので、駅と部

室の、小屋と言っては失礼だが、建物との間は畑だった。グラウンドの周囲も畑で、インゴールに棄てられた大根が腐っていて、首を突っ込むとやたらに臭かった。ある日、練習が終わって、陽が沈む頃花小金井駅で上り電車を待っていると、向こう側のフォームに当時としては見たこともないような真っ白な薄手のドレスを着た若い女性が立っていたが、逆光の中、黒いズロースが透けて見えたのには感激した。今の人はこんな言葉は知らないだろう。

あれは確か駒場の東大グラウンドで日比谷とやった時だと思うが、氷雨となり、凍えるような寒さとなった。スクラムの上だけ湯気が上っていた。祿に喰う物も無い時代だから、もう駄目だと思い、レフリーをしていた笹川さんに試合を中止するよう、お願いして同意を得た。竹割君の話では、あれは先ず両チームのキャプテンが相談して、レフリーをお願いしたということだが、見ず知らずのレフリーであればそんなことはお願い出来なかつたろう。随分あとになって、笹川さんにこの一件を話すと、「止めてくれと言われた時は俺もホッとした」と言っておられた。

その後は皆バラバラになり、笹川さんとは滅多にお会いすることが無かつたが、広島から本社に戻り、常務になられてからは、何回かお会いする機会があつた。彼も我々と過ごした一時期を懐かしがっておられた。六十年近く前の話である。我々も笹川さんも若かつた。

連載 OB コラム

今回で 7 回目となる OB コラムですが、今回は昭和 57 年卒の清野 健一さんに書いていただきました。次号は昭和 61 年卒の道家 竜馬さんに書いていただきます。よろしくお願いいいたします。

清野 健一 (昭和 58 年卒)

「ラグビー人生、四半世紀

【麻薬に蝕まれた生活?】

$3 + 4 + 13 + 5 = 25$ 。

高校、大学、社会人、スクールと歩んできたラ

グビー人生も、はや四半世紀となる。かつて大学時代、「君にとってラグビーとは?」という問いにあつて「麻薬」と答えた事がある。やらないでしばらくすると体が疼く、始めるとなかなか止められない、これはヤバイ。

楽しみを知った 3 年間

小石川で学んだことは、自分たちで型を創り出す、自分たちのラグビーを楽しむ、ということで、これが結構ハマつた。SO だった私は相手のスタイルを見て攻め方を決めるわけだが、メンバーも揃い F W からのボール供給が比較的安定していた事で、皆で研究して創ったサインプレーが強豪の私立高校にも通用したのである。また何にも増してよかつたのは齋藤さん、田代さん、平さんなどの諸先輩方が、秩父宮で、また当時のバイブルであるラグビーマガジンの中で小石川の名前とともに、躍動していたのである。こうなれば、俺たちも続けとばかり、体力、体格で劣る我々が私立校に勝つには? と考え、次から次へと妙なサインを考えたものだ。いかにトライゲッターの若林まで速く廻すか? いかに機動力のある F W をバックラインに絡めるか? いかにキックを操って見方に優位な転がりにさせるか? それらが試合で決まると楽しくてたまらない。いい循環をしていた。

挫折と勝利への執念を覚えた 4 年間

しかし、大学に入つてすぐにそれらの全てが、真っ向から否定された。とにかく基礎体力が何より必要であり、その前には小手先のサインプレーなどは吹っ飛んでしまう。1 年生の春は、「上には上があるもんだ」と舌を巻いて過ごした。体力、走力で追いつかねばならない。一生の中で一番走つた時期だろう。でもこれは逆に、ラグビーをやらされていた時期でもある。

1 年が過ぎ、2 年、3 年とだいぶ慣れてきた時に、この小石川での独創性、型にはまらないプレーが役に立ち始めていた。体力が付き、走れる基礎が

できると次のステップを考える。どうすればそこで抜ける？思い通りにBKを動かせる？FWを活かせる？後に社会人になり本当に「ラグビーを楽しむ」ということがわかる基礎となった時期でもある。

ところで、日比谷、大泉、石神井、青山、三鷹、国立など都立のライバル校は時々大学選手権のメンバー表で見かける。早稲田にも石神井などは脈々と人材を送り込んでいる。小石川のラグビー部の存続のためにもぜひとも大学の体育会で続ける人が多数出てきてほしい。皆が考えるほど難しいものではない。ほんの少しの忍耐力と、少しの集中力、少しの創造力をプラスすれば続けていけるものである。

さて、大学の晩期に学んだ事は、「勝負事は勝たなければ楽しくない」これには賛否両論あるだろうが、チャンピオンシップを狙うスポーツにおいては、「敗れたけどいい試合だった！」なんてことは言わない。「準優勝だから誇らしげに胸を張れ！」なんて、ありえない。これまでにない強いインパクトのある教訓を得た。これは「荒ぶる」を歌えるのは大学日本一になった時の4年生のみという早稲田独特の勝利への拘りがもたらすものだろう。

自分も楽しむ、仲間も楽しませる、融合したラグビーを覚えた13年間

いよいよ、大学生活も終わり、社会人になった。今までの経験をサラリーマン生活で活かそう、と思ひ、今のトッブリーグチームの前身である東日本リーグから3ランクほど下の関東社会人リーグ3部のNTTに入社。これからのラグビーはそこそこやって「仕事で勝負だ！」と思いきや、ここでまた、ハマってしまう。こんなチームでも一生懸命ラグビーをしている人がいる。この人たちと共に勝ったら、益々楽しい思いができるに違いない。もう一回だけ勝負してみよう！そしてまた、走り出した。ここで始めてキャプテンとして、監督として楽しさ=勝利を目指した。もちろんチー

ムメイトも合意の上で厳しい練習を課した。その甲斐あってか、勝ちへの拘りが脈々と続き、トッブリーグにあと一步と迫っている。ここからの壁はまだ厚いだろうが、毎回応援に行くたびに熱い思いが伝わってくる。

新たな境地の5年間。さらにステップアップ！

そして現在、ハマっているのが子供のスクールのコーチである。いたいけな子ども達が、教えたとおりに、いやそれ以上に鋭いステップを踏み、怒涛のタックルに入り、素早いジャッカルをするのだ。こんな面白い事はない。このスクールで身体を動かすうちに、またプレーをしたい気持ちが目覚めてきた。この前の小石川OB戦を含めて6月は3試合をこなした。どれも15分ハーフだが...。あとに残る全身の痛みが懐かしい。

間違いない。まさに、ラグビーとは私にとって「麻薬」である。

富山さんからの仰せで今回この執筆を承ったが、実はこの先輩と相まみえたのは、一回だけではなかったと記憶している。当時都下の東伏見から都心目白の学習院に遠征して、試合をした。確か最終的には、我が軍の逆転勝利だったと思うが、なぜか、コーチから「勝ち方が悪い。最後に追いつけるのだったら最初から出せ！」といったお叱りを受け東伏見まで帰って反省練習をしたような...。いずれにしる、ほろ苦い思い出だ。

さて、次にバトンを渡そうと思うのは、私が大学で勝負を賭けていた2、3年のオフに、自主トレも兼ねて小石川に行った時の現役でSOにいた道家君である。自分にはない、稀に見るセンスをしていた記憶がある。大人気ないことに、アタックディフェンスの時にタックルで痛めつけ、本気になって抜きに出てしまったものだ。この絶頂時の大学生を本気にさせたのである。無論、このことは人には話したことはないもので、彼にとっ

ても初めて聞く話だと思う。ましてや彼にすれば覚えてないかもしれない。

つれづれなるままに我が四半世紀を述べてきた。たかが 25 年である。もっともっと長くプレーをされている多くの先輩方がいるはずだ。まだしばらくは止められない。

OB 現役プレーヤーより

今回、高校を卒業してもラグビーをやり続け、東京農工大学ラグビー部で活躍されている島崎将成さんに書いていただきました。

島崎 将成 (平成 13 年卒)

私は東京農工大学ラグビー部に所属していません。今年で創部 55 年、地区対抗リーグに所属しているチームです。私の大学は規模も大きくなく、学校として部活動に力を入れることもないので、特に近年では部員の確保というのが大きな課題であります。それでも毎年、未経験者から各地の強豪校、時には花園経験者まで新入生として確保し、選手の育成とチームの創造に苦心しています。そして秋に行われる地区対抗リーグで全国大会を目指しています。知っている方もいらっしゃるかとは思いますが地区対抗リーグは各地区によって仕組みが様々で、「地区対抗」として個別の予選地区が形成されているのは関東甲信越のみです。そんな中、東京地区では武蔵工業大学や北里大学といった理系の学校が多く、研究や勉強のために練習に多くの時間を費やせない学校が集まっているようです。しかし、だからと言って手を抜く訳ではなく各校工夫して切磋琢磨しています。

私には(以前記事を書いていらした)井戸間多先輩・荒川隆吉君のように話す言葉も内容も持ち合わせていません。と言っても何か書かねばいけない、ということで最近感じていることを書こうかと思えます。

私は高校時代にはキャプテンを務めさせていただきました。大学でもキャプテンと主務という外部

との交渉役をやらせて頂きました。高校・大学共に生活の中心にラグビーを置いています。ここ数年、様々なチームでプレーさせて頂くようになりました。大学のラグビー部でプレーすることを最優先としていますが、先ほども言いました通り人数不足が影響して、十分な練習試合を行えていないのが現状です。大学でのラグビー生活で培った人脈を活かして、企業のラグビー部やクラブチームの練習に参加させていただいて、試合にも出させてもらっています。そこで幅広い年齢の方々と知り合いました。またラグビーと関係の無い人も高校・大学・アルバイト・ボランティア等を通じて様々な人に知り合いました。そこで感じたのが、何かに「打ち込むこと」の大事さです。私は素晴らしい高校でラグビーという素晴らしい競技に出会えました。この出会いがあったからこそ約 10 年、ラグビーに、そしてその他様々なことに打ち込むことが出来た様な気がしています。ラグビーは特に激しく厳しいスポーツだと思いません。だからこそ得られるものも大きいと思っています。そして奥が深い。当然の事かも知れませんが、大学 5 年目の今でも発見や学ぶことは山ほど残っています。ぜひ高校生の皆さんには太く長く(出来れば)ラグビーに打ち込んでもらえたら、必ず素晴らしい財産に巡り会えると思います。

最後にこのラグビー部を作ってきた歴代の諸先輩方、ご指導下さった先輩方、一緒に汗を流した同期・後輩達に感謝の言葉を記し駄文を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

理事会よりお知らせ

平成 18 年度総会のご報告

6 月 24 日土曜日、平成 18 年度後援会定期総会が行われました。

小石川高校グラウンドにおいて現役と OB との試合が行われ、その後千石会館彩華園に移動して、総会、懇親会が開かれました。総会には OB の方 30 名以上と先生、現役部員 2 名が参加し、活発な意見交換が行われました。総会資料の一部

を会報の最後に記載いたしました。

ラグビー部 60 周年記念式典について

小石川高校ラグビー部は、来年で創部 60 年になり、記念式典を計画しております。創部 60 周年記念式典実行委員会の南 高之さんより現在の経過報告をしていただきました。

南 高之 (昭和 45 年卒)

小石川高校ラグビー部が、来年 (2007 年)、創部 60 周年を迎えます。

そこで「創部 60 周年記念式典」を開催したいと有志が集まり、平成 18 年 1 月に「創部 60 周年記念式典実行委員会」を発足させ、ラグビー部後援会理事会において承認を受け、今日に至りました。

後援会会長川口 明氏並びに理事会理事長齋藤 守弘氏をオブザーバーに、実行委員長には昭和 40 年卒豊田 皓氏が就任いたしました。

現在は、昭和 39 年～平成 12 年卒の有志が実行委員会のメンバーとなり、来る平成 19 年 (2007 年) 6 月 23 日 (土) を記念式典開催日として、準備を進めています。

先日 (平成 18 年 6 月 24 日 (土)) の平成 18 年度ラグビー部後援会総会において、実行委員会メンバーの昭和 45 年卒南 高之より記念式典の予定について説明があり、ご出席の O B 各位にご了解いただきました。

内容は、次のようです。

1 . 記念試合について

- ・都立大泉高校を招待し、現役同士及び O B 同士それぞれの試合を行う予定。
- ・試合会場については、現在、東京ドームを候補として、交渉を行っている。公営のグラウンドやその他グラウンドにも打診してきましたが、立地条件 (距離) 及びスケジュール (利用資格・予約状況) の面で予定が立たず、あまりにも不確定であったため、断念。グラウンドは、あくまでも芝生のフィールド (人工芝も含む) であるこ

とに固執しました。しかし、今後の交渉次第で土のグラウンドになる可能性もあります。

2 . 記念式典パーティについて

- ・記念試合会場は東京ドームホテルにて行う予定。
- ・式典内容については、未定。今後、詰めていく。

3 . 記念品について

- ・60 周年記念ジャージを作成。購入していただくよう O B 全員に募り、希望の背番号とサイズを、事前にオーダーしてもらうこととする。
- ・既に、担当が東洋紡との折衝に入っている。デザインについては、今後、進めていく。
- ・このジャージは、記念式典当日あるいは事前に注文者に配布され、試合会場にて、そのジャージを参加者全員で着用し、全員による記念撮影をする予定。

4 . 記念誌発行について

- ・20 周年から 50 周年までの記念誌の合本とし、新たに、歴代のメンバーの写真 (卒業アルバムから収集)、公式試合記録を整理し、掲載する予定。

5 . 名簿の発行について

- ・後援会全会員名簿を、新たに発行する予定。現在、多くの方の消息・所在が判明していますが、不明の方もまだまだあります。今後、各学年幹事の方を通じて、消息等をお問い合わせする予定。

6 . 記念式典会費について

- ・パーティ費、記念ジャージ代、記念誌代等を含めて、参加される方々に、プリペイド方式にて、お支払いいただく予定。

ここで特に、名簿発行について、各位のご意向をお尋ねしたいと存じます。

名簿へのお名前以外の内容の掲載を拒否される方、また、公開される内容の制限等のご希望がある方は、是非とも、後援会事務局 (E-mail koishikawa_rugby@hotmail.com) あるいは編集後記にあります連絡先まで、ご連絡下さいますようお願いいたします。

また、その他、ご意見等ございましたら、同様にご連絡下さいますようお願いいたします。

以上、ご報告いたします。

大泉高校ラグビー部 60 周年記念式典

今年、都立大泉高校ラグビー部は 60 周年を迎え、6 月 17, 18 日に小石川高校との定期戦および 60 周年記念式典が行われました。

17 日に現役の定期戦を慶応大学日吉グラウンドで行い、12 - 38 で小石川が敗れました。また、18 日にOB 同士の定期戦を辰巳の森海浜公園ラグビー練習場で行い、12 - 24 で小石川が敗れました。引き続き、池袋プリンスホテルで行われた記念式典に山田先生、川口会長、齋藤理事長、中村暢幸氏、武藤拓馬氏が参加いたしました。

学年幹事の設置のお知らせ

平成 15 年度より連絡体制強化のため、学年幹事を整備しております。各種の情報伝達（試合日程・試合結果の連絡・年会費徴収促進・慶弔関係対応など）の窓口になっていただくことを目的としております。

以下のように各学年 1 名、ないし 2 名の方々になっております。まだ学年幹事が決まっていない学年もございます。なっただけの方がいらっしゃいましたら、是非編集後記にあります連絡先までご連絡ください。

昭和 25 年卒	
昭和 26 年卒	
昭和 27 年卒	
昭和 28 年卒	
昭和 29 年卒	
昭和 30 年卒	
昭和 31 年卒	
昭和 32 年卒	
昭和 33 年卒	
昭和 34 年卒	
昭和 35 年卒	
昭和 36 年卒	
昭和 37 年卒	

昭和 38 年卒	
昭和 39 年卒	田野 正人
昭和 40 年卒	山中 達夫
昭和 41 年卒	俵 一雄
昭和 42 年卒	川口 明
昭和 43 年卒	植草 正信
昭和 44 年卒	清田 滋
昭和 45 年卒	南 高之
昭和 46 年卒	柳原 義弘
昭和 47 年卒	堀井 省三 秋山(竹末) 弘子
昭和 48 年卒	石黒 基国
昭和 49 年卒	熊谷 政彦
昭和 50 年卒	
昭和 51 年卒	小泉 良紀
昭和 52 年卒	平 耕一
昭和 53 年卒	本澤 豊
昭和 54 年卒	渡辺 将
昭和 55 年卒	新保 泰広
昭和 56 年卒	矢島 秀一
昭和 57 年卒	森林 滋
昭和 58 年卒	清野 健一
昭和 59 年卒	渡辺 豊
昭和 60 年卒	
昭和 61 年卒	道家 竜馬 花島 毅
昭和 62 年卒	原 敬一郎
昭和 63 年卒	中村 浩一
平成元年卒	嵯峨山 聖基
平成 2 年卒	井上 浩志
平成 3 年卒	栗村 賢司
平成 4 年卒	
平成 5 年卒	菅原 賢
平成 6 年卒	尾崎 公律
平成 7 年卒	浜田 尊之
平成 8 年卒	上野 央
平成 9 年卒	井上 幾仁
平成 10 年卒	
平成 11 年卒	山崎 陽一郎
平成 12 年卒	武藤 拓馬
平成 13 年卒	島崎 将成
平成 14 年卒	野渡 寛介
平成 15 年卒	齋藤 十五 南 公一郎
平成 16 年卒	木村 啓介
平成 17 年卒	小林 弘和 西山 一寛
平成 18 年卒	

公式ホームページ紹介

円滑な情報伝達と会員の親睦を図るために小石川高校ラグビー部後援会のホームページを開設しております。ホームページのアドレスは

<http://www.geocities.jp/koishikawarugby/>

です。ホームページ上の掲示板には OB、OG をはじめ、現役部員も書き込んでいます。1 度ご覧になり、近況や後援会に対するご意見、現役生への励ましなどを是非お書き下さい。

また現役の練習スケジュールも載せておりますので、ぜひ練習日程を確認していただき、グラウンドに足をお運び下さい。

平成 18 年度会費納入のお願い

今年より小石川も中高一貫教育となり新たに中等部が発足しました。小石川高校ラグビー部も中等部でラグビー部が創設されないかぎり長い伝統に終止符がうたれるという危機に直面しています。高校においても中等部発足に伴い定員も半分に減ったためラグビー部員獲得につき非常に苦しい実情であります。

このため後援会として中等部でのラグビー部創部と高校のラグビー部発展のため物心両面の支援を具体的に検討しています。

また来年はラグビー部創部 60 周年を迎えます。このため後援会費もますます必要になりますが、現在のところ納入率は非常に低い状況です。今後も後援会活動を充実させていくため、年会費の納入をお願いいたします。

また、同時に寄付も募集しております。年会費と同時に振込みください。ご協力よろしくお願いたします。平成 17 年度会費未納入者の方で今年度会費額を超えて納入していただいた方は、超えた分を平成 17 年度会費分とさせていただきます。

年会費は後援会規約第 6 条により社会人は 5000 円、学生は 3000 円となります。

ただし、満 70 歳以上の会員の方は、会費の徴収を免除いたします。

会費振り込み方法は以下の通りです。

郵便局 (同封の振込用紙をご利用下さい)

口座番号 : 00100 - 0 - 591395

加入者名 : 東京都立小石川高等学校ラグビー部
後援会

銀行

みずほ銀行 駒込支店 普通預金

店番号 559 口座番号 0451272

小石川高等学校ラグビー部後援会

後援会メーリングリスト参加のお願い

会員間の情報交換及び試合日程のお知らせなどのために後援会のメーリングリストを運営いたしております。参加希望の方は、下記の URL にアクセスしていただくか、又は連絡先にご連絡をしていただきますよう、お願いいたします。

<http://groups.yahoo.co.jp/group/krc-koen/>

住所不明者

(敬称略)

昭和 29 年卒	神田 孝行
昭和 31 年卒	勝部 照雄
昭和 33 年卒	郡司 裕美
昭和 33 年卒	佐藤 芳之
昭和 34 年卒	山岸 萬男
昭和 35 年卒	前田 忠昭
昭和 36 年卒	江口 次郎
昭和 36 年卒	竹内 誠
昭和 37 年卒	杉本 優
昭和 37 年卒	船越 丈生
昭和 38 年卒	野口 順三
昭和 38 年卒	清水 正一
昭和 39 年卒	金沢 洋一
昭和 39 年卒	西尾 征二
昭和 40 年卒	岡崎 憲治
昭和 40 年卒	宮田 光彦
昭和 42 年卒	中村 義昭
昭和 45 年卒	成澤 淳
昭和 49 年卒	武藤 郁子
昭和 49 年卒	幸島 敏
昭和 50 年卒	荒井 優二
昭和 53 年卒	中田 真一
昭和 53 年卒	菊地 昭仁
昭和 53 年卒	永田 利樹
昭和 54 年卒	越田 明宏

昭和 55 年卒	手塚 正時
昭和 55 年卒	徳川 直久
昭和 56 年卒	泉 達也
昭和 57 年卒	佐々木 清子
昭和 58 年卒	矢作 真樹
昭和 59 年卒	木内 俊直
昭和 59 年卒	遠藤 誠
昭和 60 年卒	佐藤 修
昭和 60 年卒	平石 憲一
昭和 61 年卒	秋山 真一
昭和 61 年卒	市田 太一
昭和 61 年卒	山本 浩司
昭和 62 年卒	五十嵐 雅祥
昭和 62 年卒	高岡 由紀子
昭和 63 年卒	菅野 悦也
昭和 63 年卒	田中 富也
昭和 63 年卒	東野 武人
昭和 63 年卒	小笠原 裕司
平成元年卒	小室 文也
平成 2 年卒	斉藤 慎也
平成 2 年卒	橋本 智
平成 3 年卒	南條 正明
平成 3 年卒	大前 裕之
平成 4 年卒	久保田 正弘
平成 5 年卒	野田 秀和
平成 5 年卒	小山 慎一郎
平成 5 年卒	高野 信一郎
平成 6 年卒	酒井 くみ子
平成 6 年卒	佐藤 大喜
平成 7 年卒	榎 達也
平成 8 年卒	平柳 竜樹
平成 9 年卒	五百蔵 孝信
平成 9 年卒	梅谷 哲也
平成 9 年卒	吉川 直美
平成 9 年卒	井口 敦
平成 10 年卒	安田 大成

以上の皆様の住所をご存知の方、引越し等で住所を変更される方は編集後記にあります連絡先までお知らせください。

編集後記

今年度より小石川の中高一貫教育がスタートしました。今後はラグビー部としては部員の確保が最大の目標ですが、3年生は秋の大会に向けて悔いの残らないよう練習に打ち込んでほしいと思います。

最後に、今回会報作成が大幅に遅れましたことをお詫びいたします。また、会報作成にあたり、ご多忙の中原稿執筆等にご協力くださった皆様、ありがとうございました。

(編集担当：木村 啓介(平成 16 年卒))

なおこの会報についてのご意見、お問い合わせ等は、以下の連絡先までお願いいたします。

<連絡先>

武藤拓馬(平成 12 年卒)

住所:〒175 - 0082

東京都板橋区高島平 7 - 20 - 10 - 404

TEL : 090 - 6140 - 8356

E-mail: brief_schicken@hotmail.com

次回の会報は平成 18 年 1 月発行の予定です。

平成 17 年度活動実績報告

平成 17 年度の活動内容を報告いたします。

- 1 広報活動
 - ・会報の発行(第 6 号(平成 17 年 9 月)、第 7 号(平成 18 年 1 月))
 - ・メーリングリスト運用拡張(後援会・理事会・学年幹事・60 周年実行委員会)
 - ・後援会ホームページによる情報発信
 - ・試合予定・結果のお知らせ(ホームページ/メーリングリスト)
- 2 現役活動支援
 - ・現役生への補助
 - ・夏季合宿への差し入れ(平成 17 年 8 月)
- 3 その他
 - ・理事会の開催(2 回)
 - ・学年幹事制度整備
 - ・60 周年記念式典実行委員会(4 回開催)
 - ・PR チラシ部会
 - ・慶弔対応

平成 18 年度活動計画

今年度も昨年度の活動を踏まえ、現役支援および会員の交流・親睦のために活動を行っていくこととします。

- 1 広報活動
 - ・会報の発行(年 2 回)
 - ・メーリングリスト運用(後援会・理事会・学年幹事・60 周年実行委員会)
 - ・後援会ホームページによる各種情報発信
 - ・試合予定・結果のお知らせ(ホームページ/メーリングリスト)
- 2 現役活動支援
 - ・現役生への金銭的補助
 - ・夏季合宿への差し入れ
- 3 その他
 - ・理事会の開催
 - ・60 周年記念事業の準備(住所録整備、学年幹事整備)
 - ・中高一貫化(平成 18 年度より)対応(PR チラシの作成)
 - ・会費納入促進

平成 17 年度(平成 17 年 7 月 1 日～平成 18 年 6 月 30 日)決算報告

収入の部	年会費及び寄付	¥564,000
	利息	¥2
	前年度繰越金	¥1,236,357
	印刷代寄付	¥88,410
	懇親会寄付	¥6,922
	合計	¥1,895,691

支出の部	学生強化費	¥229,699
	夏季合宿 OB 補助	¥58,500
	大泉定期戦費用	¥130,000
	通信費	¥129,800
	保険料	¥15,000
	振込手数料	¥9,355
	60 周年積立金	¥100,000
	会報印刷代	¥88,410
	雑費	¥3,945
	合計	¥764,689
	次年度繰越金	¥1,131,002

以上

平成 18 年度(平成 18 年 7 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日)予算

収入の部	年会費及び寄付	¥800,000
	利息	¥10
	前年度繰越金	¥1,131,002
	合計	¥1,931,012

支出の部	学生強化費	¥400,000
	夏季合宿 OB 補助	¥100,000
	大泉定期戦費用	¥100,000
	通信費	¥130,000
	現役保険料	¥15,000
	振替手数料	¥10,000
	60 周年積立金	¥100,000
	雑費	¥10,000
	中高一貫対策費	¥100,000
	予備費	¥966,012
	合計	¥1,931,012

以上

注記：60 周年積立金は平成 18 年度予算分を含めて最終的に ¥ 5 0 0 , 0 0 0 となります。